

キラリ輝く「しぶしっ子」育成のために

☆ 自然が子どもを成長させる～自然体験が子どもに与える影響について～

子どもの自然体験が不足している！

- ⇒ 現代の子どもは、『体を動かさない』『人と触れあわない』『話さない』という問題が指摘されています。この3つの要素が少なくなったことで、日常の遊びの中で得られる“**学びの場**”がなくなっているといわれています。
- ⇒ 屋内で遊べるものが充実しているため家の中にいても退屈しません。その結果、友達と一緒に外で遊ぶことも少なくなり、成長に必要な**様々な経験が昔に比べて不足**しています。



自然体験が不足すると子どもはどうなる？

- ⇒ 1980年代以降、ゲーム、ビデオ、パソコンなど、子どもたちが外へ出なくても楽しめるものが急増し、**他者との関わり合いが非常に苦手**で、**相手を認めることをせず、争いばかり起こす大人が増**えてきている。（ある大学教授の説）
- ⇒ 食べ物の味が分からない、屋外では生理的な用が足せない、鶏肉は工場で生産されていると真剣に信じている人、キャベツとレタスの違いが分からない若者が増えてきている。（同）
- ⇒ 自然体験の機会が少なくなると、美しいものを見ても美しいと感じる心が育たないということも懸念されています。**美しいと感じる心**は、生まれた時から当たり前のように身に付いているものではなく、親やまわりの人とのコミュニケーションのなかで**体験したり、学習したりして獲得していく感情**なのです。



脳を鍛えるには自然体験が効果的！

- ⇒ ある研究者によると、多くの自然体験活動をした子どもほど『**体力に自信がある**』『**得意な教科の数が多い**』『**環境問題に関心がある**』『**課題解決能力や豊かな人間性など“生きる力”がある**』とされています。刺激がたくさんある自然のなかで、仲間と一緒に新しい体験を通して、一人一人が主体性を持ち、生きていることの喜びを実感できるようになるのです。
- ⇒ 自然体験が脳にどのような影響を与えるかの研究の結果、子どもが外を動きまわるストップ＆ゴーの動きで、**前頭葉が活性化**することが分かってきました。**前頭葉は人間らしさを司る部分**。人類愛も戦争による殺人も、この部分が司っていますから、前頭葉をどう育てるかが大切です。さらに森のなかになると、脳細胞を殺すストレス物質が減るということも分かっています。ですから、脳を鍛え、育てるなら、自然の中がより効果的だといえます。

キャンプは親子の野外教室！

- ⇒ **親子でのキャンプ活動が大事**です。親子間のコミュニケーションが減っているこんな時代こそ、親の背中を見せる時間、親が楽しんでい



- ⇒ 身近にいる大人＝親が、**子どもをフィールドに連れ出してあげる**。そして、**一緒に遊ぶこと**から始めてください。焚き火でも、釣りでも、クッキングでも、キャンプには、大人と子どもとの**共同体験の機会**がたくさんあります。そうした体験を通じて、子どもたちは**自主的に物事を判断**できるようになり、いろんなことに**自信をもって取り組んでいける**ようになるのです。
- ⇒ このような経験を積んで社会に出ると、子どもたちが“**学びの場**”で**経験してきたことが活かされ、前向きに生きる力をつけていける**ようになるのです。



青少年教育施設（自然の家等）やキャンプ場等を家族や子ども会、PTAなどで活用しましょう！

☆ 「大人が変われば、子どもも変わる」運動の推進を！

◎ 「まず、大人自身が変わる」

青少年が健やかに育つには、親や大人の役割や責任が大きいことを広く認識し、自らの生き方を見直し、実際の行動に結びつけることが大切です。

☆ 具体的な行動

① まず、自分自身を省みて、子どもの手本となるよう努める。

親や大人は自分自身を振り返り、過剰な利己・個人主義は見直し、子どもたちの手本となるようにしたいもの。地域社会との関わりを深めることも大切です。

② そして、子どもたちと正面から向き合い、対話を深める。

子どもたちの気持ちをくみ取るためには、まず、話し合うこと。善悪の判断力、いのちや自然を思いやる心を育てて下さい。声をかけ合える関係づくりこそ基本です。

③ 子どもたちを取り巻く環境を見直し、その改善に立ち上がる。

地域環境を点検・見直し、子どもたちが安心して生き生きと過ごせるよう、好ましくない環境に対しては、改善のため積極的に発言・行動していきましょう。



◎ 「地域のおじさん、おばさん運動」

“地域の子どもは、地域で守り育てる”を合い言葉に、大人が子どもたち一人一人を暖かく見守りながら、ときに励まし、ときに注意や助言をすることにより、地域の連帯感と教育力を高めていくことを目的にした運動です。

☆ 「地域のおじさん、おばさん」になるためには・・・

- ・ 特別な資格や条件はありません。
- ・ 子どもたちの健やかな成長を真に願っている人であれば、誰でもなれます。
- ・ 子どもの指導や育成体験、特技や専門性などに応じ、できることから実践していきます。
- ・ 最終的には、個人的な努力が成果につながりますから、一人一人の地道で確実な実践が大切です。



☆ 具体的な行動

子どもたち一人一人を暖かく見守ることから始まります。以下の事例を参考にしながら、地域の子どもたちに必要なことを、できることから始めてください。

① よいことは自ら率先して行動する。

子どもたちのお手本となるようにしたいものです。

② まず、子どもたちに暖かい声をかける。

あいさつはすべての基本。身近な子どもたちから“おはよう”“こんにちは”と積極的に声をかけてください。良い行いを目にしたときは、ためらわず褒めてあげましょう。逆に、危険な遊びやルール違反は、見て見ぬふりをせず、注意しましょう。



③ そして、子どもたちの立場に立つ。

大人は、子どもたちの気軽な相談相手であり、理解者でありたいもの。困ったとき、苦しいときこそ、よりどころになれることが大事です。

④ 子どもたちの情愛の気持ちや、独立心を育ててあげるよう努める。

友だちとの遊び、自然や動植物との触れ合い、異年齢グループの中での活動などは、子どもたちの健やかな心やからだを育むうえで欠かせない体験です。子どもたちが、自分で考え、判断し、行動するという体験の機会や場づくりも大切です。

⑤ 子どもたちを事故や犯罪から守る。

子どもたちの事故につながる危険な場所や犯罪に巻き込まれる恐れのある地域環境はありませんか？地域の環境を点検してみましょう。



☆ 子どもに自信をつけさせる5か条

- (1) 家事を手伝わせ、「助かったよ」と子どもに感謝する。
- (2) 子どもの失敗を減らすには、「失敗してもいいんだよ」と話す。
- (3) 例え謙遜でも、わが子の欠点を第三者に話さない。
- (4) 得意科目に時間をかけた方が、不得意科目も向上する。
- (5) どんなことがあっても、親は子どもの味方であることを繰り返し伝える。

